

我々の著書ご紹介：

「とことん語る 福島事故と原子力の明日」－ 学生と原子力OBの往復書簡 －

学生とシニアの対話会編著 社団法人日本電気協会新聞部発行 エネルギー新書

(本書は一般書店で販売中。在庫切れの場合は書店を通じて発行元からお取り寄せ下さい。)

出版の「経緯と狙い」について

ほぼ半世紀の年齢差を超越して交わされた「学生とシニアの往復書簡」は、謂わば「爺と孫との問答集」であるが、本書は2009年以来3年間に亘って交された往復書簡の集大成であり、「とことん原子力について語り合った赤裸々な実態」を皆様にご披露したものである。我々の著書ご紹介の初めに「往復書簡」とは何か、本書の出版に至る「経緯と狙い」につき、同書の「あとがき」を引用して以下にご説明したい。

「学生とシニアの対話会」と「往復書簡」

我々シニアは次世代を担う学生を対象にして、「学生とシニアの対話会」を実施してきた。2005年に始めたこの活動は2011年末までに66回を数え、原子力系の学生から一般理工系、教育系など文系学生にまで輪が広がり、院生・学部生・高専生及びシニアの参加人数は延3,000人を超えた。

「学生とシニアの対話会」は、エネルギーと地球環境問題、原子力の果たすべき役割と課題、将来展望などをテーマに据えて共に考え、ごく率直な意見交換を重ねてきた。

しかしながら半日程度の対話会では、双方に語り尽せないフラストレーションが残った。そこで、とことん意見交換する場を再設定しようとのシニアの呼びかけで、交流の在り方を学生諸君の検討に委ねた。学生がテーマを選び、自由な時間を使って質問と意見をメールによりシニアに投げかけ、これにシニアがメールで応える、と云

新刊案内 (社)日本電気協会新聞部(電気新聞)メディア事業局 <http://www.shimbun.denki.or.jp/>
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 TEL: 03-3211-1555 FAX: 03-3212-6155

エネルギー新書

**とことん語る
福島事故と原子力の明日**

—学生と原子力OBの往復書簡—

著者：学生とシニアの対話会

日本の原子力を担ってきた第一級の技術者、専門家が現役を退き、今、熱い思いを次世代に引き継ぐ！
世代を超えた本音のぶつけ合いから見えてくる原子力の実態。
福島事故そして原子力に明日はあるのか？

**マスコミが伝えない事実を
とことん語り尽くした1冊！**

目次	第一章 とことん語る福島事故
	第二章 事故から学ぶ
	第三章 放射線は怖い？
	第四章 核燃料サイクルは本当に必要か？
	第五章 廃炉と放射性廃棄物を考える
	第六章 日本のエネルギーはどこへ向かう？

世代を超えた本音のぶつけ合いから見えてくる原子力の実態。
マスコミが伝えない
真実が明らかに！

価格：1,050円(本体1000円+税)
ISBN 978-4-905217-15-2

この注文書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください
購読者・郵便用紙同封の上、宅配便にてお届けします(送料実費、到着に3～7日かかります)

FAX 03-3212-6155

書名	ご注文部数	ご注文日
とことん語る 福島事故と原子力の明日	部	年 月 日

う「往復書簡」が学生側から提案された。学生とシニアの有志はテーマ毎にグループを編成し、「往復書簡」が大真面目に展開された。単なる質疑応答にとどまらず、学生は率直な意見をシニアに投げかけ、ボランティアのシニアは真摯に対応を重ねた。

往復書簡の狙い、出版企画と3・11東日本大震災

シニアの熱い思いを学生諸君へ伝え、学生には次世代を担う心構えを培って貰いたいと念じ、「心の伝承」と「人材育成」の期待をこの交流に託した。学生達はシニアの経験と知見をひき出し、彼らに託された課題と解決の糸口をシニアの語りの中に見出そうと努めた。その成果をまとめて、2009年・2010年の二年連続で、往復書簡の在りのままをA4サイズに収録して限定出版した。

しかしながら、学生とシニア及び限られた関係者向けの限定出版は、余りにも「もったいない」。類い稀な「爺と孫との問答集」は、是非とも意識レベルの高い市民の皆様にもご披露すべきだ、との強い要請に応じてこの出版企画が持ち上がり、シニアの有志で準備が進められた。

二年間に亘って積み重ねた往復書簡を基に、原稿を書き直して編集が進められ、最終原稿がほぼ校了した段階で、3・11東日本大震災と福島事故が発生した。

福島事故を踏まえた往復書簡の積み重ねと、新書版の出版

出版企画は印刷直前であったが、福島事故を重く受け止め、意見交換を原点に戻してやり直すことにした。事故の経過を辿り、従来議論して来た安全問題と放射線問題を掘り下げ、廃炉と高レベル放射性廃棄物の処分を考え、核燃料サイクルや原子力政策或いは国際問題への影響などについても総合的に議論を重ね、視点や論点など必要に応じて修正を加えつつ、往復書簡はとどまるどころが無かった。福島事故に関連する複雑な問題はメール交換だけでは意を尽くせない、膝を交えて深掘りをしたいとの学生希望で、10指に余る全国の大学から学生が参加して、関東地区と関西地区それぞれで対話会が開催され、熱のこもった議論が終日展開された。

学生諸君のテーマ選択は、福島事故と原子力の抱える多様な側面を、必ずしも網羅しきれていない、或いは系統的にカバーしきれていない憾みはあるが、不足分については今後も往復書簡を継続したいとの希望が学生から寄せられている。学生諸君の問い掛けと寄せられた意見は、それぞれごく率直で適確なものだった。これらは、見方によっては市民の声を代弁しているかもしれない。また、シニアの面々は学生に伝えつつも、何時しか「往復書簡」を超えてより多くの市民の皆様へ熱い思いを訴え、ご理解を求めているかのようにも窺える。

そこで本書の出版に際しては、読者の皆様も往復書簡を疑似体験して頂けるよう、紙面構成を配慮した。積み上げられた往復書簡はA4換算で約300頁にも及び、かなり専門的な領域にも及んでいたが、皆様にご披露するに際しては、専門用語は極力排除し、大幅に紙数を圧縮し

てシニアが書き直し、学生のレビューを経て編纂した。従って、本書の文責は各章毎に表示したシニア執筆者に帰せられることをお断りしておく。

読者の皆様はそれぞれの立場を超えて、様々な視点から原子力に関する課題につき共に考えて頂きたい。本書が皆様のご理解の一助になり、我が国の今後のエネルギー選択に際して、些かなりともお役に立つことが出来れば、本書を世に問う学生とシニアにとってこれに勝る喜びはない。本書を手にとってお読みいただき、忌憚なきご批判や、ご叱正を頂ければ幸甚である。

以上、「とことん語る 福島事故と原子力の明日」出版の経緯とねらい等につきご紹介した。本ホームページでは、各章の概要或いは特徴ある記事につき、編集を分担されたシニアの皆様に引き続き執筆願う予定である。

「とことん語る 福島事故と原子力の明日」 編集幹事 小川 博巳